

# 伊豆大島におけるノコギリ歯型傾斜変動出現頻度\*

国立防災科学技術センター\*\*

国立防災科学技術センター伊豆大島第一火山観測施設(御神火茶屋, 標高558m)の地下約78mに設置された傾斜計<sup>1)</sup>によって1987年2月より鋸歯の形をした特異な傾斜変動が観測され続けていた<sup>2)</sup>。このノコギリ歯型傾斜変動の出現状況を把握するために, 日別出現頻度を作成した(第1図)。もともになるデータは, テレメータによって筑波に送られてくる地殻傾斜変動NS成分のアナログモニター記録(分解能 $5 \times 10^{-8}$  radian)である。ノコギリ歯型傾斜変動は, S 20° E方向が上下する2つのステージが1組となって発生するもので, この1組の変動の出現頻度をカウントすることで, 日別出現頻度を求めた。下から上へのびる棒グラフは, 日別ノコギリ歯出現頻度をあらわし, 上から下へのびる棒グラフは, テレメータ障害・停電等による欠測時間をあらわす。2月, 3月, 及び5月前半はかなり頻度の高い時期が続いた。5月後半~7月前半にかけては頻度が減少したが, 8月半ばからは増加傾向に転じた。火山活動の動向を知る一つの目安として, 今後も, ノコギリ歯型傾斜変動の発生状況を監視し続ける必要がある。

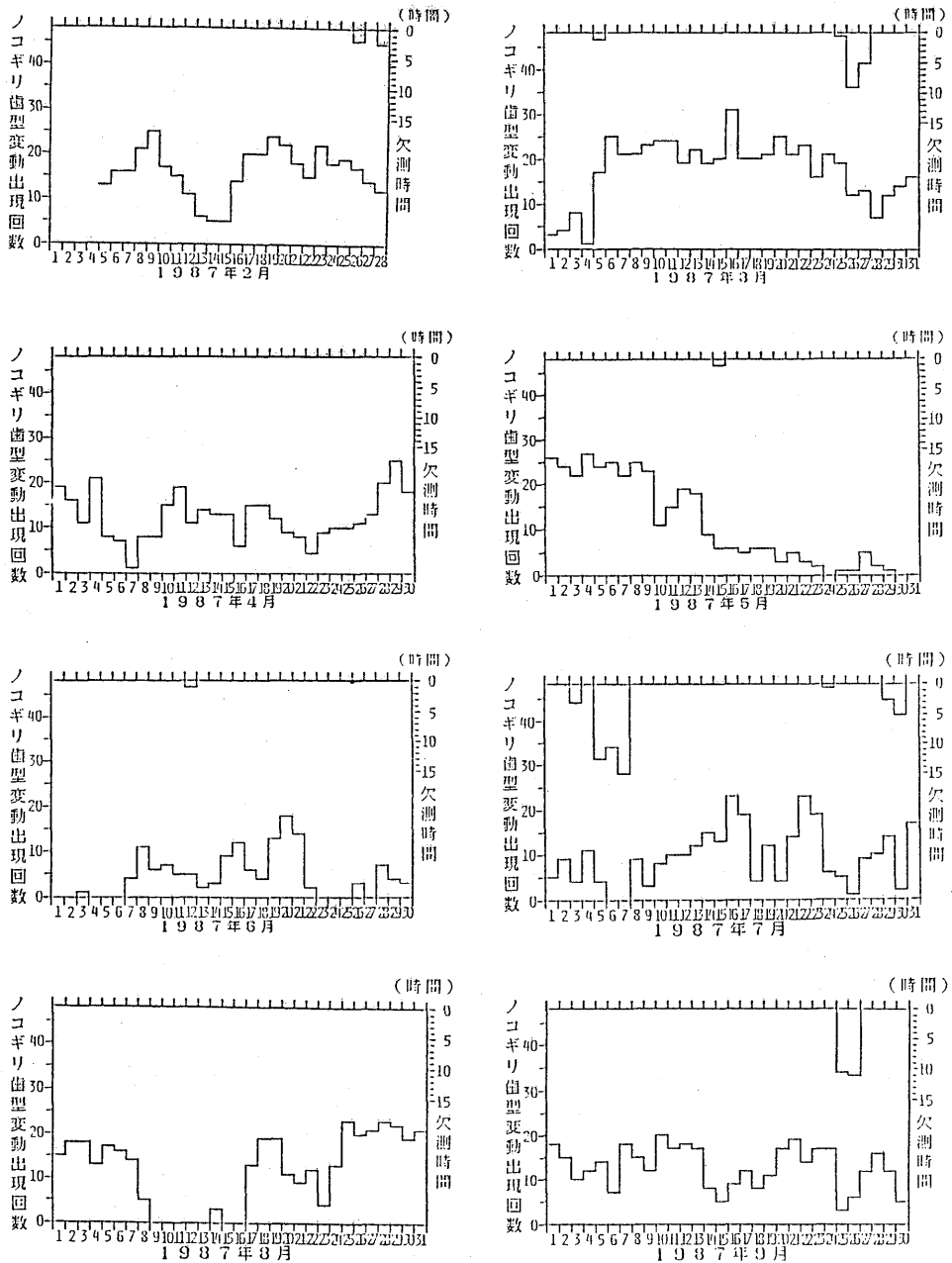
## 参 考 文 献

- 1) 国立防災科学技術センター(1988): 1986年伊豆大島火山噴火前後の地殻傾斜変動, 噴火予知連会報, 39, 66-76.
- 2) 同 上 (1988): 1986年伊豆大島火山噴火に伴う特異な傾斜計の動き-長周期微動とノコギリ歯型傾斜変動-, 噴火予知連会報, 39, 77-80.

---

\* Received Jan. 21, 1988

\*\* 福山英一



第1図 ノコギリ歯型傾斜変動の日別出現頻度(2月5日-9月30日)。欠測時間も同時に示されている。

Fig.1 Daily frequency of the Saw-Teeth-Shaped tilt change occurrence from 1987 Feb.5 to 1987 Sep.30. Lack periods of the observation data are also shown.